

「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」をめざす新聞利用のあり方2

長野県上田市立川西小学校 水野 哲

I はじめに

上田市立川西小学校は、上田市の西方、宅地開発が進みつつある小泉・仁古田・岡の平坦地と室賀の谷を校区に持つ、全校児童300名余り・各学年2学級規模の小学校です。

本校は、室賀・浦里・小泉の各保育園出身の児童を核としながら、10近くの保育園・幼稚園から子どもが集まり、「よく学ぶ子ども・美しい心・たくましいからだ」を学校目標として学んでいます。

16年度まで表現力を高めるための研究と実践を続け、より積極的に思いを発信する力を高めていきたいと願い、平成17年度より「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」をテーマに研究してきました。同時に、NIEの実践校として認定を受け、2・4・6年生の担任が1名ずつ推進役となり、日々の学校生活の中に新聞を取り入れ、上記のテーマの達成に結びつく学習が成り立つよう研究を進めました。本年度は推進役がそれぞれ3・4・5年の担任となりましたので、継続的に研究を続けました。

II 実践の概要

(1) 3・4・5年生における授業・学校生活での新聞活用のあり方の研究と実践

本年度も、昨年度の反省を生かし、普段の授業・学校生活の中に無理なく新聞を取り入れた学習をしようと考え、実践してみました。

3年 → 月一度の新聞を読み、スクラップを作成する授業の実施

- 4・5年 → ① 日々の生活の中で新聞を身近に置き、新聞に気軽に親しむ環境作り
② 毎朝の短時間の学級活動の時間における有効活用のあり方の研究

III 実践の内容

1 新聞の選択と配置・整理のしかた

17年度に引き続き18年度もNIE実践校に指定を受け、9月から新聞を下記のように配達していただきました。

新聞名	9月	10月	11月	12月	1月	2月
朝日	○。	○。	○。	●。		
毎日	○	○	○。	●。	。	。
読売			○。	○。	○。	○。
日経	○	○。	○。	○。	。	
産経		。	○。	○。	○。	○
信濃毎日	。	。	○。	○。	○	○

●印は小学生新聞（。は、昨年度の配布）

平成17年度の場合

17年度では、NIE研究発表での実践校の発表をお聞きし、まず教職員が新聞に慣れ親しみ、活用へのヒントを得られることが第一と考え、新聞は、すべて職員室に隣接した休憩室に係が並べて置き、一日が終わると職員室廊下に新聞ごとに積み上げていくような体制でスタートを切りました。

しかし、推進担当の職員ですら、配られたすべての新聞に触れることは容易ではなく、ほかの職員は手にとることもできないまま終わってしまうことがありました。逆に子どもたちの身近においてお

くことは、テレビ欄・4コマ漫画はもちろんのこと、その他写真や広告など、それぞれの好みの視点から新聞に慣れ親しむことはできたようでした。

平成18年度の場合

上記のような実態から昨年度途中より子ども中心の配布計画に変更しました。

(1) 新聞の配布とそれぞれのクラスでの置き場所

係は、毎日配達された新聞に目を通し、子どもたちの話題になりそうなこと、新聞により特色ある記事・社説が得られそうな時、授業に取り上げることができそうな記事があると、研究通信に紙面を掲載したり、職員朝会などで連絡したりして新聞の利用が少しでも高まるように配慮しました。

17年度は、係が5時過ぎに届けられた新聞を全部チェックしていたので、それぞれの新聞のおおよその教育関係記事が掲載される曜日や場所の見当もつきました。また、各紙の記事の取り上げ方や論調のちがいがいもかなり明確につかめましたので、必要に応じて重点的・効率的にチェックした後は研究推進学級にその日か次の朝のうちに配るようにしました。

(それぞれの学級の前の戸のそばに置いていただいたので、隣の学級の子も休み時間に見ることもあったようです。後で見に行くことに何の問題もありませんでした。)

見終わった新聞は、一ヶ月単位で教室に保管しておいていただき、その後は最寄りの資料室などに分散して保管してもらいました。

(2) 新聞の購読期間の工夫・職員への伝達

9月から翌年2月まで3学級にそれぞれ1部ずつ配れるようにしました。(前表参照)

11月と12月が六紙全部配られるので、この時は、職員室に三紙置いておき、気が向いたら学級に持って行ってもらいました。2年目ということ、新聞好きな職員も増えたことなどもあり、新聞を見比べて話題にあげることも出てきました。

教育・文化面での記事は、教職員向けとして今年も研究通信で紹介していきましたが、これも各紙それぞれに特色があり、参考になりました。

例 ① 「いじめは、管理型学級でも、馴れ合い学級でも置き安いとった記事」など。

② 研究通信でのNIEへの取り組みの紹介など

NIE関連ニュース (研究通信から抜粋)

9月1日より朝日・毎日・日本経済新聞が配達されています。

新聞の読み比べは、市立図書館へでも行かなければできないと思いますが、今ある新聞を読み比べていただければ、その社説・論調のちがいがはっきりします。それを心に置いて、日々の授業に新聞ネタをお話いただけるだけでも効果があると思います。ぜひご覧ください。

昨年2年2組で実施した新聞活用の学習は、次のようなものでした。

- ① 1ヶ月分の新聞を持っていき、一人1日分ずつ配る。
- ② その新聞の中から自分の興味関心のある写真・記事をみつけたら、印をして、大きめの付箋紙に感想を書く。
- ③ 切り抜いて100円ショップで買ったクリアファイルに挟む。

これだけで、〇年〇組からみた〇月の記録ができます。

授業の成果か、3年2組で9月12日に実施したところ、喜んで新聞記事を読んで記事に〇をつけていました。

「いい記事がないなあ。」と言いながらも、日本経済新聞でも探すことができました。

また、昨年度の4年理恵子先生と6年松井先生のクラスでは、新聞を読んだ感想を短学活で紹介していくという活動を積み重ねてくださいました。このほかにも、いろいろ短時間でできる実践例があります。少しずつ紹介していきます。できるところから楽しく、地道に実践していただけたらありがたいです。

よろしく願います。

(3) 各紙の紙面の差異と小学生段階での取り上げ方

① 各紙の紙面は、取り上げられた記事やその軽重などそれぞれに特色があり、政治・経済・社会

的な記事を比較すると大変おもしろいのですが、そのような学習場面を組むことは、小学生段階ではかなりむずかしく、無理ではないかという感じは今年になってもしています。

- ② 紙面編集の方針から小学生が興味を持ちづらい新聞もありましたが、どの新聞も写真や広告などに注目させれば同じように取り組むことができると確認しました。(3年2組の実践参照)

(4) 新聞の利用と保存

理想を言えば、「必要な部分をコピー、新聞は全部取っておく」だと思います。

しかし、本校の場合コピー機は南校舎、子どもたちは北校舎です。コピーの費用と手間を考え、17年度、新聞を切り抜く時は、

① そのページを記録し、切り抜いた記事は、そのままクリアブックに入れて保存。

② 新聞は、1ヶ月分貯まるまで教室に、その後は各階の資料室に保存。

にしましたが、実際には切り抜きの裏の記事が必要になったことはありませんでした。

そこで18年度は、

① 必要な記事は自由に切り取ってA4の紙に貼り付けて保存。

② 切り抜いた後の新聞は、そのまま一ヶ月は教室、その後各階の資料室に保存。

としました。些細な変更ですが、気分的にずいぶん楽になり、「NIEは、気軽にやるが一番」と感じました。

(5) 小学生新聞の利用

18年度の実践の中で、小学生新聞をとることができるとわかりました。そこで、12月は朝日と毎日の普通の新聞をとることをやめ、小学生新聞に切り替えて、1部は5年、もう1部は図書館に配置しました。

小学生新聞ですと、3年生の段階からほとんどの記事を十分に読みこなせ、おもしろいという声を得ることができました。内容も日々の国語・社会・理科・総合的な学習に必要なとあればそのまま使えるような記事が多く、その点で満足がいくものでした。

しかし、文章量がかなり少なく、また当然のことながら地域の記事やスポーツなどの情報は一般紙に比べて少なく、3年生の中にも「わかりやすく、読みやすいけれど、なんか(量が少なくて、地域のことがわからなくて)つまらないな。」という子が出てきました。

パソコンを使うとき、はじめはソフトキーボードその後ローマ字入力とするか、それとも1年生からローマ字入力がいいのか、といった問題と同じむずかしさが明らかになりました。

(6) 図書館に置くことについて

本校の開館・一般貸し出し時間は、朝と2時間目の休み時間です。週に1時間は、国語の時間の中で図書館を利用できるようにあらかじめ時間割を組んであります。このほか、子どもたちは、このほか、昼休みや放課後に図書館を訪れ、本をみることがあります。

このような状況の中で、小学生新聞を図書館に配置してみました。その結果、ほとんど利用しないまま終わってしまったそうです。(業間5分休みは移動と用便で終わり、見に来られない。20分休みなどは本の貸し借りの児童で混雑し、みなそれに夢中で、ゆっくり新聞を見ている時間がない。)

細切れの5分の業間休みの時もちょっとみることができるよう、とにかく身近に置くことが必要と感じました。

このほか、1紙だけをとっていたのでは触れることができなかった資料を得るなど、たくさんの新聞を同時にみせていただくよさを実感でき、それが職員の間になんげつ広がった一年でした。

2 3・4・5年生における授業・学校生活での新聞活用のあり方の研究と実践

《1》3学年での新聞活用の実践

(1) 3学年の対象学級の実態

24名の対象クラス内で、新聞との関わりを聞いてみたところ、14名が家庭で地方紙であるA紙を購読し、約6名が全国紙のB紙、1名が全国紙C紙、残り3名が新聞を取っていない家庭でした。予想通り、家庭で新聞を見る子の多くは、テレビ番組欄、4コマまんがを読み、ほかは写真を含めてほとんど見ないということでした。この実態は昨年とほとんど変わっていません。

2学年での実践から、2年の漢字能力では、読める内容は限定されているものの、興味関心のあるテレビ欄の内容をクイズ形式の問題を出してみると、前後の仮名文字や数字・テレビ局名などから総合して推理し、既習内容以上の漢字を「読むこと」ができていました。

漢字は2年終了までに240字、3年で200字を習いますが、3年ともなると漢字の「へん」や「つくり」についての知識も増えます。漢字を教える時もこれらを生かして教えるとともに、



そのほかの字も紹介するようにしていきました。(当然書けることは求めませんが、その漢字を見たら読みや意味を類推するよう指導しました。)

こうして3年の学習がほぼ終わった段階で、どれだけ読めるようになったかを、本人たちの

得意なテレビ欄に習った漢字・知っている漢字に赤丸をつけてもらい、成長の度合いを実感してもらいました。(上の写真)ここまで自信をもって読めるように成長しました。(書く方はころもとないですが・・・)

これらの実態をもとに、2学年からの継続で、

「新聞に親しみ、自分の感想をメモし、友だちに伝えること。(←NIE関連の部分)

友だちの切り抜き(作品)を見て自分の感想を伝えること(全教科・全校で実施する部分)」を第一の目的にした授業を実施しました。

(2) 授業の実際

① ねらい

新聞から興味関心をもった写真やイラスト・広告を切り抜き、それを選んだわけや感想をお互いに紹介することを通し、自分の思い・感じたことを伝える力を高めたり、友だちの感性のよさに気づいたりするとともに、新聞への興味・関心を高める。

② 実施時間

1回につき45分で月1回程度実施。

③ 展開の実際

学 習 活 動	活 動 の 実 際	備 考
新聞の中からお気に	1 1ヶ月分の新聞を用意し、全員に1日ずつ配	用意するもの

入りの写真やイラスト・記事を探そう	<p>布する。</p> <p>2 「配られた新聞の中から気に入る記事や写真・まんが・イラストを探そう」と声をかける。</p> <p>3 その新聞(1日分)の中にいいものが無い場合、それを教卓に持ってきて、残っている新聞と交換して探すよう指示する。</p> <p>4 選んだ「記事」を切り抜く。</p>	1ヶ月分の新聞紙 はさみ・カッター のり付付箋紙 (コメントカード)
選んだわけをメモカードに記入しよう	<p>1 選んだわけを付箋紙に簡単に記入する。</p> <p>2 書けないでいる児童には、個別に話を聞き、書き方を指示していく。</p>	
自分の選んだものを友だちに発表しよう。	<p>1 1回目は、全体の前でしっかり書けた子の「記事」を中心に紹介していく。2回目以降は、グループでの発表なども取り入れ、なるべく多くの児童の「記事」を紹介していく。</p> <p>2 担任は、それぞれの子の発表後、選んだよさを認め、いろいろな観点で「記事」を選ぶ楽しさを高めるようにする。</p>	・4コマまんがを選んだ子には、後で他紙の4コマまんがと比べてみるように促す。
発表を聞いた感想を発表しよう。	<p>1 友だちの発表を聞いての感想をカードに書いたり、発表したりする。</p>	感想記入カード

④ 成果と課題

- ・昨年度と同じ展開でくり返し実施しました。記事はもちろん写真・イラスト・漫画もOKなので、比較的短時間で選択できます。3年生ともなると、45分の中で終わります。
- ・2年のころは、テレビ欄・4コマ漫画などが中心でしたが、3年になると新聞の他のページをみることへの抵抗感がなくなり、写真で選ぶことは多いのですが、記事の中身まで読みながら決めるということがありました。
- ・友だちの好きな記事・写真・イラスト・漫画などを知ることを通して、さらに仲よくなるというたよさがでてきました。
- ・17年度と同様、「相手を知る＝相手を大事にする」をモットーに、様々な学習の場面で、友だちの学習のよさを担任が紹介したり、お互いにそのよさを理解し、発表したりする場面を増やしています。これらの活動の成果なのか、社会科見学のまとめや図工・音楽などの鑑賞の場面で思わぬほど詳しく感想を書く子が増えています。まだ文章の構成がうまくいかないものの、文章量も全般に増加しています。
- ・スクラップがたまるにつれ、それぞれの子の個性がはっきりしてきました。野球・サッカー好きというようなことはもちろん、歴史的な話題が好きな子、科学的な話題が好きな子といったようなこともはっきりしてきました。自己理解も深まるようです。

《2》 4・5年での新聞活用の実践

4・5年での活動は、主として、朝の学級活動の時、気になる新聞記事を紹介し、その記事を廊下に掲示していきました。

① 朝の学級活動での気になる新聞記事の発表

朝の学級活動の時間、児童が気になる記事を選んで、発表するようにしました。

5年生は、当番の2人がそれぞれに記事を選んで、スピーチタイムに発表するようにしました。

また、その日の記事にどうしても気に入ったものがない場合、教室においてある新聞から一週間以内の記事を選んで発表するということもしました。

② 作ったスクラップの掲示

昨年度までは、それぞれの学級で発表された後は、教室内に掲示していました。しかし、本校の校内研究の成果より、「製作したものは、隣のクラスや他学年にも見てもらうほうがいい。できるかぎり他学級と発表し合うほうがいい。」と結論がでてきましたので、今年は廊下の窓下に全員分を貼り付け、新たに作ったスクラップはその上に重ねて画鋏で止めていくという方法にしました。

5学年の研究学級は、ちょうど校舎の中央部分に当たるので、4年や6年の児童にも見てもらえる場所となり、今までよりたくさんの児童に見てもらえるようになりました。

自慢のスクラップをまとめて、撮影



左の付箋は、友だちの感想文

IV 実践の成果と課題

昨年度に引き続き、日々の学校生活の中に新聞を用いた学習を無理なく入れて継続的に指導し、その他の指導と含めて「自ら意欲的に学び、発信する学校づくり」の実現のために実践を重ねました。

その中で、4・5年担当職員の学級では、朝10分の短い学級活動の時間の中に組み入れたスピーチタイムで仲間に新聞記事紹介をしました。これにより新聞全体をさっと見て自分の興味関心ある記事を探す力・読んで簡単に感想をまとめる力・みんなの前で発表する力を少しずつ向上させることが

できました。この実践は、どのクラスでも授業時間をつぶすことなく、新聞に慣れ親しむことができるというよさがあり、今後他のクラスでも導入して行けそうです。

2→3年と継続的に実施した授業では、新聞を見るのが苦にならず、新聞を読む時間は楽しいというイメージを持てるようになり、コメントも簡単に書けるようになってきました。月1回の単発型の学習くらいならなんとか時間を確保できそうです。

反面、今年度も、新聞（記事）を直接題材に取り上げ、じっくりと時間をかけて学習をしていく単元を設定できませんでした。新聞と今までの学習とを組み合わせ、さらに有効な単元となるような工夫を見つけ、学習を発展させていきたいと考えています。

3年生での実態にあるように、最近では新聞を取っていない家庭も微増してきています。逆に家庭のデジカメやパソコンインターネット回線を使わせてもらえ、調べ学習をそれでやって来る子は3年でも急増してきています。このように家庭の環境により、日々の生活の中で触れる情報の量・質に無視できない格差があり、情報の共通基盤が少なくなったのではないかという感じは一段と強くなりました。そのような中で、学級に新聞があり、それを少なくとも当番に当たった子が見て記事を選んで発表し、情報を共有していくということ、その記事が掲載されている新聞をみなが見るといことは、その情報格差を和らげ、お互いの理解を深め、共通基盤を作るのに一役買えるのではないかとますます強く感じています。

昨年は、「小学校の子どもたちが大人の読む新聞をそのまま利用するのは困難なので、もう少しやさしい、何種類かの子ども向け新聞が気軽に読めるような環境ができるといい」とこのまとめに書きましたが、実際に利用してみたの感想は、「両方に触れさせる機会があるといい」と言うものです。

17・18年度の本校のように、新聞をたくさん配っていただける環境であるならば、小学生新聞と普通の新聞の両方でできるだけ触れさせてあげる機会を作る。そうすれば、どの子も新聞に親しみ、地域のことによりくわしくわかるといったよさが出てきます。

この研究を川西小でさせていただくにあたり、校長の許可は得ましたが、職員全員の全面的な賛同を受けるといわけにはいきませんでした。そこで新聞を使って日々の実践をしたことのある先生に声をかけ、個別にお願いして、無理のない実践を続けていただきました。機会あるごとにまわりの先生方にも実践を紹介したり、授業をみていただいたりしましたが、授業時間中も、朝・帰りの学級活動でもやらなければならないことは多く、実践が広がったとまでは、いえませんでした。

今後、このような研究の機会があったら、全職員が無理なく参加する基盤作りからできるといいと思います。

最後に、2年間、このような学習・研究の機会を与えていただき、本当にありがとうございました。